

平成29年度 2学期終業式 挨拶

平成29年12月22日（金）

皆さん、おはようございます。

9月1日から始まった2学期でしたが、今日でその2学期が終了します。

今年もあと10日余りで新年を迎えます。

今日の終業式では、大きく二つのことについて話をしたいと考えています。

一つ目は、この「2学期の総括」について、二つ目は、始業式と同様に、私から「皆さんに伝えたいこと」ということで話をします。

まず、一つ目の「2学期の総括」ですが、

先日、成績会議がありました。1学期と比較して、1年生は横ばい、2年生は、すこし下降気味、3年生は進路先が決まってきた関係もあって、下降気味という印象を受けました。特に2年生はもう少し頑張ってもらいたいと今後の期待を込めてお伝えします。

3学年全体としては、2学期になって遅刻・欠席の数が増えていることが気になりました。体調には個人差があり、寒くなってくると体調が思わしくなく、なかなか朝起きられない人もいますかと思えます。それでも自分の体調は自分で管理するしかありません。自分自身の体質をよく理解して対応してください。

問題は、遅刻・欠席の理由が単なる「寝坊・怠け」の場合です。このような理由で遅刻・欠席を繰り返している生徒に対しては、私から生活習慣の改善を求めたいと思います。

3学期は、寒さがさらに厳しくなりますが、まず生活の基本として遅刻や欠席をしないよう、健康管理も含めて心がけてください。

学校行事では、9月末に行われた文化祭と11月の持久走大会が印象に残っています。

文化祭では、生徒会を中心に、各クラスや部活動としての催しなど、皆さんが事前によく計画をして一所懸命取り組んでいました。来校された多くの方々もきっと満足されたことと思います。

持久走大会では、男女で大会記録が更新され、全体の平均タイムも昨年度より向上していました。けが人もなく、皆さん一人一人が全力を出しきったいい大会だったと思っています。

二つ目は、私から「皆さんに伝えたいこと」ということですが、今回は「自分で考える」ということを中心に話をしたいと思います。

「自分で考えていますか？」ということを探ねると、「考えていますよ」という答えを返す人が多いと思いますが、本当に「考えている」のかどうか、というと必ずしもそうではない人が意外と多いのではないかと推測しています。

私自身、これまでたくさんの人との出会いや交流がありましたが、結論から言うと、「考えている」人と「考えていない」人では、長い人生において、かなり大きな差となって自分に返ってくると、そう考えています。

「自分で考える」ことが、自分にどう返ってくるかという、身近な例でいえば、例えば、「他人の意見や噂に流されない」とか、「困難なことに出会っても、簡単にはあきらめず、別の方法や道を見つけだす」とか、そういうことにつながってきます。

どんな分野でもいいんですが、自分で考えることで、ひとつの壁を突き破ると、自分の目の前の世界が大きく広がっていくことを実感できるし、そういう経験を持つと、「自分でもやれるんじゃないか」という自信が湧いてきます。

今日は、皆さんにとって身近な場面（学校生活、人間関係、仕事）を例に出して、具体的に話をします。

(1) まず、「学校生活」ですが、

勉強や部活動など、毎日新たな知識や技術を習得することが、まさに皆さんが学校に通ってくる目的ですが、授業の内容が難しく、よくわからないことにぶつかったとき、あるいは部活動で一つのプレーがうまくできないことにぶつかったときに、その場から逃げ出したい、放り投げたいという気落ちを持ったことが誰でもあると思います。

私は、これまで多くの高校生と係わってきましたが、その中で、「自分はこれが苦手」とか「自分にはこんなの無理だ、できっこない」とか、本当は素晴らしい才能があるにもかかわらず、はじめから自分自身で自分の限界を作っている高校生をたくさん見てきました。

その共通点は、「やらず嫌い」です。そしてそこには「自分の頭で考える」ということをせずに、できないと勝手に判断している自分がいる。

つまり、自分の才能や可能性を自分自身が信じていない、あるいは気づいていない。とてももったいないことです。

何か思い通りにいかない場面にぶつかったときこそ、一度立ち止まり、冷静になって自分の頭で考える、ということがとても大切だと思います。

仮に、一所懸命「考えた」にもかかわらず、最終的に好結果につながらなかったとしても、そこで考えたことの経験が次のステージで生きてきます。

決して無駄にはならないわけですね。

目の前の壁や困難から逃げずに、一度ゆっくり考えてみるということに慣れてくると、だんだん失敗を恐れなくなってきました。

そういうことを、ぜひ高校時代に経験してほしい。そうすることによって、将来自分が何をやりたいか、何ができるか、ということも見えてきます。

(2) 「考えること」の二つ目は、「人間関係」についてです。

よく人間の成長をととえる表現に「大人になる」という言葉がありますが、私自身は、その「大人になる」という言葉の意味は、「相手の立場を考えて行動できること」、別の言い方をすれば、「人の痛みを感じることができること」を指して言うことだと理解しています。そして、その人が「大人かどうか」ということ、そのことを最もはっきりと表わすものは、その人の「言葉遣い」だと考えています。

「相手の立場に立って考える」ことができる人は、お互いの会話の中で、相手に対して決して不快な印象を与えません。それは常に他人を敬い、「自分で考えて」言葉を選んでいるからです。

「親しき仲にも礼儀あり」という諺がありますが、良好な人間関係を作るためには、親しい間柄でもそれなりの言葉を選ぶこと、特に先輩や上司に対しては失礼のない言葉を選んで話をすること、そういうことを実践している人は、例外なく、周囲の人から厚い信頼を得るなど、結果的に自分に対する評価を高めることにつながっています。

皆さんは、現在、SNSなど相手が見えないところで、自分の思っていることを自由に表現できる世界に生きています。

注意をしなければならぬことは、相手が見えない分、気軽に相手のことを誹謗・中傷する強い言葉を使用することに慣れてしまい、知らず知らずのうちに適切な「言葉」を選ぶということを忘れてしまうことです。

今年は、何人もの政治家が失言をして、国民から批判を買い、辞任に追い込まれるということがありましたが、あれなどは、「相手の立場で考えていない」ことの典型的な例です。政治家としての「品格がない」ということです。

皆さんには、その意味でも、学校で「言葉」についてよく勉強し、自分が使う「言葉を磨く」とともに、相手の立場に立って物事を考える習慣を身に付けてほしいと思います。

(3) 最後に、「仕事」についてです。

現在、TBSのドラマ「陸王」が放映されています。

ストーリーは、この行田市にある小さな足袋製造会社がマラソンシューズの「陸王」を開発する内容ですね。

皆さんの中で、「陸王」のドラマを見ている人も多いと思いますが、それぞれの人がいろいろな視点であの番組をご覧になっていることと思います。

私は、放送が始まる前から、一つの企業が新しい商品を開発するために、様々な技術開発、多くの資金や人材の確保など、たくさんの壁や試練が目の前に発生し、それをどう乗り越えて成功までむすびつけていくのか、ということに最も大きな関心を持っていました。

新しいことにチャレンジするときには、必ず大きな壁にぶつかるものです。

企業というのは、社会が求めているもの、「陸王」の場合は、マラソン選手が求めている靴とは何か、そのためには、どのような製品を作ることが選手の期待に応えられるのか、

そういう目標を常に定めています。

そして最後は、やっぱり「考える」ということに突き当たる。

何度も失敗し、そのたびに悩んでは新しいアイデアを考え出す、そういう失敗と成功を繰り返す試行錯誤の積み上げがあって、はじめて良い製品が生まれるわけです。

「陸王」の放送の中で、失敗した試作品の靴の山がありました。あのたくさんの失敗作から新しい製品が開発されるわけです。

これは「陸王」に限ったことではなく、皆さんの身の周りのもの、例えばスマホ、コンピューター、自動車、LEDライト、など、現在の生活で便利であたりまえの製品は、「陸王」と同じように過去の無数の失敗の山から開発されたものです。

そこでは、常に失敗から原因をさぐり、次のステップのために「考える」という行為が繰り返されてきました。

皆さんには、そういうことが「人生を歩いていくことの基本」だということを理解してほしいと思います。

特に、3年生の皆さんは、卒業まであとわずかですが、卒業後も「自分で考える」ということを忘れないでいただきたい。

そのことが、卒業後の幸せな生活に結びついていきます。

「陸王」の撮影には、9月に本校のこの体育館も会場として使用され、主役の役所広司、それから今若者の間で人気絶頂の山崎賢人、竹内涼馬両名も来校されました。高校教師役の「鳥居みゆき」さんは本校の卒業生です。

山崎賢人さんとは少し話をしましたが、心根の優しいとてもいい青年ですね。有頂天にならずに、このまま謙虚な気持ちを持ち続けていけば、今後も俳優として大きく成長し活躍していくだろうと感じました。

以上、終業式に当たっての私からの言葉といたします。

皆さん一人一人がいい年末と新年を迎えられることを願い、そして1月9日の始業式には、全員が元気でこの場でお会いしましょう。